

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

ゼラチン製造工場における重油ボイラーから高効率都市ガスボイラーへの更新

排出削減事業者名：彦根ゼラチン株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	彦根ゼラチン株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	彦根ゼラチン株式会社
住所	滋賀県犬上郡豊郷町大字大町307番地の1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

ゼラチン製造工場における重油ボイラーから高効率都市ガスボイラーへの更新

2.2 排出削減事業の目的

工場で使用しているボイラーを高効率の機種へ更新するとともに、重油からガスへの燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法。

重油ボイラーを高効率都市ガスボイラーへ更新する。これにより、エネルギーの使用の合理化を進めるとともに、二酸化炭素の排出原単位が小さい燃料へ転換することで、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2011年 1月 7日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2018年 3月 31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業における算定のバウンダリーは、更新前が A 重油ボイラー5 台、更新後が都市ガスボイラー4 台であり、その蒸気の全量を生産工程（主に原材料の乾燥工程）で使用している。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の都市ガスの使用量	千 Nm ³	2013 年度：1,684.6 2014 年度：1,722.2 2015 年度：1,720.3 2016 年度：1,697.7 2017 年度：1,732.3	検針票もしくは請求書より集計（検針票に記載されたメーター値を供給圧を 0.98kPa とし、滋賀県（彦根）の平均気温より標準状態に換算する。）	変更なし
ε_{Pj}	更新後のボイラー効率	%	88.2	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
ε_{BL}	更新前のボイラー効率	%	90.3	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（都市ガス）の単位発熱量	GJ/ 千 Nm ³	2013 年度：44 2014 年度：46.4 2015 年度：46 2016 年度 ～2017 年度：45	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（都市ガス）の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度 ～2017 年度：0.0513	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料(A 重油)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度～ ～2017 年度：0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	1,684.6	44	0.0513	3,802.5
2014 年度	1,722.2	46.4	0.0513	4,099.3
2015 年度	1,720.3	46	0.0513	4,059.5
2016 年度	1,697.7	45	0.0513	3,919.2
2017 年度	1,732.3	45	0.0513	3,999.0
単位	千 Nm3	GJ/千 Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				19,879.5

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	72,399.5	—	0.0708	5,125.9
2014 年度	78,050.7	—	0.0708	5,526.0
2015 年度	77,293.0	—	0.0708	5,472.3
2016 年度	74,620.0	—	0.0708	5,283.1
2017 年度	76,140.4	—	0.0708	5,390.7
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				26,798.0

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	26,798.0
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	19,879.5
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	6,918

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン－実績 (①－②)
9,380.3	9,603.6	-223.3

省エネルギー量（原油換算）＝ -223.3 kl (9,380.3-9603.6)、省エネルギー量（熱量換算）＝ -8,656.6 GJ (363,576.7-372,233.3)

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)